

働き方アラカルト

「働く」ことは、単にお金を稼ぐだけでなく、人と関わること、社会と繋がること、次の目標に向かうこと、生きがいややりがいを感じることも…その人ごとに意味があるのではないのでしょうか。働く目的がさまざまであるように**働き方も人それぞれ**です。今回は、サポートを受けながらも**自分らしく働く「福祉就労」**という働き方を特集しました。

働き方いろいろ

就労継続支援A型

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います。（厚生労働省のHPより）



就労



障害者雇用

ユニバーサル就労

就労継続支援B型

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います。（厚生労働省のHPより）

地域活動支援センター

障害者等が地域活動支援センターに通うことにより、創作的活動または生産活動を行い、社会との交流促進等の便宜を供与します。



就労相談機関

障害者職業センター

障害のある方に対して、ハローワーク（公共職業安定所）と協力して、就職に向けての相談、職業能力等の評価、就職前の支援から、就職後の職場適応のための援助まで、個々の障害のある方の状況に応じた継続的なサービスを提供しています。

障害者就業・生活支援センター

就職や職場適応などの就業面支援ばかりでなく、生活習慣の形成や日常生活の自己管理などに関する生活支援も重要なため、就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を身近な地域で提供するセンターで、県内に16箇所あります。

ユニバーサル就労

社会福祉法人 生活クラブ
生活クラブ風の村グループホーム作草部

並木友貴さんは、ユニバーサル就労という働き方で私たちの施設の一員として働かれています。ユニバーサル就労とは、障がいや就労ブランクといった人それぞれの要因によって社会に出て働くことが難しくなってしまった方が、ありのままにその人らしく、能力や体調を考慮し、負担の少ない働き方をしていく事で社会との繋がりを構築し、社会の一員としての役割や自信を持つことが出来ることを目指した働き方です。並木さんは高次脳機能障害の影響で疲れやすく、体調も崩しがちです。時には仕事をお休みされることもあります。働いている時は笑顔を決して、ご利用者様への声掛けも優しく積極的にして下さい。勤務の後半にはピアノの演奏をして下さり、ご利用者様にとって心地よい時間を提供して下さい。私はピアノが弾けません、並木さんは弾くことが出来ます。私にできない事でご利用者様を楽しませることが出来ます。一人ひとり凸と凹があって、それで社会は成り立っていると思います。これからも一緒に働けることを嬉しく思っています。



就労継続支援A型

NPO法人 タオ

学生時代に障害を発症したCさんは、卒業後すぐに一般就労を目指すのはハードルが高いと考え、段階的にステップアップしていくことに決め、B型就労から開始しました。DM作業（ラベル貼り・封入・封緘）といった仕事に取り組み、メモを使って手順を記憶、注意点などの記録をおこない、その都度見直すことで正確性を向上させていきました。短時間から始められ、ノルマもないので、焦ることなく自分のペースで集中力と持続力を伸ばし、自信をつけることができました。その後、週30時間就労が定着、仕事の質も高く維持できるようになったことでA型就労へ移行。食堂での仕事を始めました。ホールのセッティング、調理補助、



会計、配膳、洗いをするといった各作業に加え、お客様対応も並行しておこなうことになり、慣れるまで時間はかかりましたが、迷った時には自己判断せずに職員に聞いてからおこなうことを決め事として、チームワークを意識して頑張っています。

就労継続支援B型

NPO法人 タオ

就労継続支援B型事業所、タオ浦安で働く20代の利用者Eさんは、高次脳機能障害と知的障害を持っています。特別支援学校在学中は、企業への一般就労や就労継続支援A型での雇用型就労を目指し、実習を行っていましたが、就労時間が決まらず、相応の作業能力が求められるという働き方にプレッシャーを感じ方針転換。無理なく短時間から始められ、背伸びせずマイペースに働けるB型就労（非雇用型就労）を選択。現在はDM作業（ラベル貼り・封入・封緘）といった仕事に取り組んでいます。例えば、封筒と封入物を100枚ずつ受け取り、封入が完了したら職員に手渡し検品してもらう、という工程を繰り返します。仕事の特徴は、工程が少なく、共同作業でないことから混乱が起きにくいという点です。現在は週30時間働いて、1月の工資は約4万円ほど。定年もないので、これからも健康を維持して、長くこの職場で働いていくことが目標です。



実際にはそう...



支援機関に聞いてみました！

地域活動支援センター

地域活動支援センターココ

50代のDさんは、介護保険サービスと併用してココに就労目的で通われていました。就労にあたり、①体調管理や疲労のコントロール、②休む際の判断基準、③公共交通機関の利用に課題がありました。支援内容として、①予定表振り取り用紙を用いて作業毎に疲労を確認し用紙に記入を行ってもらう（見える化）、様子を確認しながら休憩等の促しを行い②話し合いにて休む判断基準を取り決め書面にまとめて渡し、判断に迷った際には書面を見るよう促しました。③まずは、自宅～ココ間の公共交通機関利用を段階的に増やしていきました。その際、実際にバス停の確認に行き、もしもの時（バスに乗り遅れた場合等）の対応についても確認をしました。また、上記の対応と併せて3ヶ月に1度ケアマネージャーへの利用状況の報告と担当者会議に参加し課題の共有を図り最終的には、就労継続支援事業B型に移行することとなりました。



記の対応と併せて3ヶ月に1度ケアマネージャーへの利用状況の報告と担当者会議に参加し課題の共有を図り最終的には、就労継続支援事業B型に移行することとなりました。



支援機関に聞いてみました！

就労継続支援B型

特定非営利活動法人 C'sコミュニティ

50代のFさんは大企業の技術職で働いていましたが、ご病気により高次脳機能障害が残りしました。C'sコミュニティは、2021/10に佐倉市志津にオープンした就労継続支援B型事業所です。Fさんは長い入院生活を経て実家へ戻りリハビリと社会参加を目的に疲れに配慮して週4日の通所が始まりました。記憶障害の為、単独外出は難しく最初はご家族が送迎されました。通所1か月後作業にも慣れてきたので、自宅から一人で歩いて通所できるよう支援者と練習を開始（片道15分）。1週目は支援者と一緒歩き目印となるお店の看板やコンビニを覚え、2週目は地図を持ち一人で歩き、後から支援者が付いて見守り、3週目は中間地点にあるコンビニで支援者と待ち合わせをして、3週間程で単独通所できるようになりました。Fさんはとても明るくお笑いのセンスがあり周囲を笑わせてくれます。「営業職だったので、接客も得意で、受け答えにちょっとしたユーモアを入れてくれるサービス精神があります。「今」を明るく生きているFさんには、病気になっても障害を負ってもこうありたいなと思わせてくれる力があります。

